

Citation: Sridharan K, Mohan R, Ramaratnam S, Panneerselvam D. Ayurvedic treatments for diabetes mellitus. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2011, Issue 12. Art. No.: CD008288. DOI: 10.1002/14651858.CD008288.pub2.

CRG名: Cochrane Metabolic and Endocrine Disorders Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 31 AUG 2011

Clib issue No.; N/U: 2011 Issue 12; New

背景: 糖尿病の患者は、古代ヒンズー教徒医術に基づく薬物療法を含めた補完代替医療をよく利用するため、その有効性と安全性を確認することが重要である。

目的: 古代ヒンズー教徒医術による糖尿病治療の有効性を評価する。

検索戦略: コクラン・ライブラリ(2011年第10号)、MEDLINE(～2011年8月31日)、EMBASE(～2011年8月31日)、AMED(～2011年10月14日)、南アジアのランダム化試験データベース(～2011年10月14日)、灰色文献データベース(OpenSige、～2011年10月14日)および現在進行中の試験のデータベース(～2011年10月14日)を検索した。このほかにも、数種類の雑誌と潜在的に意義のある試験の参考文献リストをハンドサーチした。

選択基準: 糖尿病に対して古代ヒンズー教徒医術に基づく介入が2ヵ月以上行われたランダム化試験を対象とした。糖尿病の罹病期間、抗糖尿病治療、併存疾患または糖尿病関連合併症にかかわらず、男女いずれも年齢を問わずあらゆるタイプの糖尿病患者を対象に含めた。

データ収集と分析: 2名のレビューアが別々にデータを抽出した。Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventionに従って試験のバイアスリスクを評価した。

主な結果: 介入のタイプが異なることとデータの質にバラツキがあることを考慮して、限られた数の研究結果のみを併合することができた。専売特許を取得した薬草混合物に関する6件の試験と包括的な古代ヒンズー教徒医術に基づく治療を行った1件の試験を特定した。これらの研究には、354例の参加者が登録されている(治療群172例、対照群158例、割りつけ不明24例)。治療期間は3～6ヵ月であった。これらの研究はいずれも、2型糖尿病の成人が組み入れられていた。

主要アウトカムに着目したところ、Diabecon群、Inolter群およびCogent DB群ではプラセボ群または追加治療を施さなかった群に比してグリコヘモグロビンA1c(HbA1c)、空腹時血糖(FBS)またはその双方の有意な低下が観察されたのに対し、Pancreas tonicおよびHyponidd治療では有意な血糖降下反応が認められなかった。包括的な古代ヒンズー教徒医術に基づく治療の研究では、HbA1cとFBSの数値に関するデータが提示されていない。Pancreas tonic治療を行った1件の研究では、健康関連QOLの顕著な変化は検出されなかった。報告された主な有害作用は、薬物過敏(1件の試験、治療群の1例)、低血糖エピソード(1件の研究、治療群の1例; 重度の低血糖は認められず)および1件の研究で確認された胃腸副作用(介入群20例中1例および対照群20例中0例)であった。分析対象とした研究ではいずれも死亡、腎毒性、血液毒性および肝毒性が報告されていない。

副次的アウトカムに着目した場合、食後血糖値(PPBS)はDiabecon投与例が低く、Hyponidd投与例には変化が認められず、Cogent DB投与例は高かった。Pancreas tonicおよびHyponiddを投与しても脂質プロファイルに有意な影響は認められなかったが、Inolter投与例はHDL-コレステロールが有意に高く、LDL-コレステロールとトリグリセリドが低かった。Cogent DB投与例も総コレステロールとトリグリセリドが低値を示した。

Diabeconを投与した数件の研究で、空腹時インスリン値の上昇が報告された。Diabeconを用いた1件の研究では、治療群に刺激時インスリン値と空腹時C-ペプチド値の上昇が報告された。Hyponidd群、Cogent DB群およびPancreas tonic群では、空腹時および刺激時のC-ペプチド値とインスリン値に有意差は認められなかった。Inolter

の研究では、これらのアウトカムが検討されていなかった。いずれの研究も糖尿病の合併症、あらゆる死因による死亡および経済データを報告しておらず、これらの項目を検討するようにデザインされていたわけでもなかった。

レビューアの結論: 数種類の薬草混合物を使用したところ顕著な血糖降下作用が認められたが、方法論的に不備があり、サンプルサイズが少なかったという理由から、その有効性に関して決め手となる結論を導出することができなかった。有意な有害事象は報告されていないが、現時点では、ルーチンの臨床実践においてこれらの介入法の利用を推奨できるほど十分なエビデンスは揃っていないため、今後さらに研究を行う必要がある。

(監訳 曾根 正好)

翻訳公開日: 2012年4月10日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。